

## 平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(志摩市)の概要

6月9日(土)に志摩市で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。当日は、志摩いそぶえ会の皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 英虞湾を利用して、若い人が働いていけるような産業をつくっていただきたい。
- 農政局の食の世界遺産に登録し、三重県を全国に発信してほしい。
- 御座で民宿と漁師をやっているが、水揚げの量も少なくなってきた、油も値上がりしている、船を走らせると損が出てしまう。地震以降、子どもたちが海を怖がり、民宿にくる客も減少している。
- 志摩いそぶえ会の活動も、パソコンと出会ったことがきっかけで、HPを立ち上げたり、情報発信したりして広がっている。今後は、世界へ発信していきたい。
- フェイスブックなどを利用したら、口コミで友達から友達へ深くつながっていくので、一過性にならない、そういう仕掛けも大切である。
- 子どもたちが少なくなって、まちが寂しい状況にある。県も市ももっと婚活に力を入れて欲しい。(志摩の食材をつかった食卓を囲む「すこいやんか婚活」をしてはどうか。)

教育の一環として、地域の郷土料理を学校給食に取り入れて、県内市町が一斉に郷土料理を食べる「すこいやんか給食」を実施してはどうか。



トークに先立ち、知事と市長はてこね寿司の仕上げを担当。食べながらのトークとなりました。

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

地域のことを好きだという人が多い地域ほど、観光客がたくさん来るというデータがある。三重県のアンケートでも自分の地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる人の割合は高い。その一方で、国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる人の割合は低いので、これが今後の課題だと感じている。来年の遷宮と再来年の熊野古道の世界遺産10周年は、チャンスとなる。伊勢神宮と志摩の御食（みけ）つの国とはどのような関係があるのか等、ストーリーや深いうんちくなどと共に発信していく仕掛けが必要だと考えている。情報も不特定多数に出すだけでなく、コアなファンになってくれそうな人に、口コミで広げてもらうような情報提供の方法も考えていきたい。子どもを産もうと思うと、その親世代が働く場をつくっていくことが必要。働く場をつくって、そこに住めるようになったら子どもも増えると思うので、そういうことをやっていく必要がある。

